

AI、機械学習と従来型研究開発の 現実的な組み合わせ及び人材の育成

◆日時: 2025年12月09日(火) 10:30~16:30

◆会場: 【WEB限定セミナー】※在宅、会社にながらセミナーを受けられます

◆聴講料: 1名につき55,000円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**49,500円(税込)**・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で55,000円(税込))**

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師: (株)キャトルアイ・サイエンス 代表取締役 上島 豊 氏

IoTやAIの普及により、製造工程以降のデータ利活用は急激に進展しています。一方、公的研究機関であれ、民間企業であれ、R&D部門におけるデータの取り扱いには属人的なままであり、研究の信頼性が阻害されたり、効果的なデータの利活用がほとんど進んでいないのが実態です。R&D部門は技術の源泉であり、データを精緻に管理して効果的に利活用する、つまりデータ分析・AI化を行うことは、今後の競争力にとって不可欠です。本講演では、まず、R&D部門のデータ共有、利活用の実情をお話しさせていただき、データ共有、利活用が進まない状況がなぜ発生してしまうのか? そのような状況にはどのような問題がはらんでいるのか?、AI、機械学習を実験の実験研究にどのように組み入れていくべきか?、どのように人材の育成を行っていくべきか? に関して、説明をさせていただきます。

1. はじめに

講演者のR&D実績とデータ共有、利活用の取り組みについて

2. R&D部門のデータ共有の実情

2.1 R&D部門のデータ蓄積の実情

2.2 属人的データ蓄積状況が生み出される原因

2.3 属人的データ蓄積状況が引き起こす問題

3. データ共有はどう実現し、何が期待できるか?

3.1 属人的データ蓄積状況を脱するために必要な方策

3.2 報告書の共有で期待して良いこと、良くないこと

3.3 データ共有で研究の何が改善できるのか?

4. データ探索、分析を意識したデータ蓄積方法とその運用

4.1 データ探索を意識したデータ蓄積方法

4.2 データ分析は、どのようにして行うのか?

5. AI、機械学習を実験の実験研究にどのように組み入れていくべきか?

5.1 機械学習などのMIの特性と注意すべき点

5.2 機械学習などのMIを研究へ組み込む方法

6. 蓄積データ、AI、機械学習を生かすためには

どのような人材、人材育成が必要か?

6.1 データ共有、利活用状況を改善するために必要な人材

6.2 各人材が果たす役割

6.3 各人材の育成方法

7. まとめ

『AI人材育成【WEBセミナー】』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

☐ Eメール☐ 郵送

● Webセミナーの受講申込みにについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして、別途視聴用のURLをメールにお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>